

# ゴビンダ通信

No 37

発行：無実のゴビンダさんを支える会  
事務局

Justice for Govinda

- Innocence Advocacy Group

March 5, 2009

支援者のみなさん、ナマステ！ 2009年3月1日  
毎日寒い日が続いていますがお元気ですか？暖かい着る服がないのでたいへん寒くて堪らないです。でもあと少しで、春なのでがまんします。この庭「Garden-yard」でうめの垂はなが、あちこちさいたので、もう春だなと感じています。きびしいきそくの中で、きんちょうしながらしごとをするのは、とてもつらいけれど、3月1日になってから1ヶ月1回のみものと菓子「confectionery」が食べながら楽しんでいきます。また1年間、きりついはんしなかつたので、去年、1年無事故にえらばれました。私は、毎日、工場にかみぎくろ作っています。私は、朝8:00から晩4:00まで、1日8じかん無料「Free」で、しごとをしています。5年かんいっしょうけんめいはたらいた給料「salary」が6000円です。たから無料です。めしもさいやくなまじいのです。よこはまけいむしよにきてから腹一杯に食ことはありません。私は、毎日30分うんどうします。1日100回うでたてと100回あっきんします。グラントにいったときはしりまわっています。私は、一しゅうかん2回にふるい入ります。なつは一しゅうかん3回ですけど12分の間からたのこみちゃんとあらいながすことできません。今月たいほされてからちょうど12年になりました。あのときから、私の人生は🌸めちやくちちにこわされてしまいました。みなさん私は、無実です。あんなおそろしいこと、神様にちかって、せうたいにやってみません。いつもせいいつぱい努力してくたさっている全てのみなさんに、心からかんしゃします。どうぞこれからも助けてくたさい。「無実」ゴビンダ！ フォラサド！ コイナリ。

2009年3月1日、よこはまけいむしよにて。

## ゴビンダさん面会報告

2月20日、ゴビンダさんの面会に「挑戦」してきました。

「挑戦」というのは、家から2時間近くかけて出かけて、果たしてゴビンダさんに面会できるか、疑問だったからです。すでに支援の会から二人、刑務所側から面会拒否をされています。そして、古くから面会を重ねていた人が、緊急の用件を話すということだけで許可され、実際、他のことはまったく話せず、帰ることを余儀なくされているからです。私は行く前に話すことのリストを作り、出来る限りのことを盛り込みました。

ほとんどねじり鉢巻きの勢いで面会に行きました。

午後1時半を過ぎていたでしょうか。面会者がいつもより多く、一時間以上待たされました。他の面会者はおそらく家族だったからでしょう。私だけ、面会室の中に呼び込まれ、面会の趣旨を聞かれました。私が並べ立てた理由を刑務官が書き留め、上司と相談するので又外で待つように言われました。結果は O.K. でめでたく面会できました。ほんとにほっとしました。

ゴビンダさんはとても元気そうで、本人も最近調子が良く、夜も薬を飲まずに良く眠れるとにこにこして話してくれました。前の晩ネパールの家族に電話をかけ、お母さんのこと、奥さんのラダさんのこと、子供たちのことなど、聞いていたので、その報告をし、その他、来日中の大臣宛のゴビンダさん自筆の上申書を確かに渡したということ、大使と弁護人の会談のこと、お母さんとお兄さんの来日の可能性など、こちらから話すことが沢山あったため、途中で、刑務官にはい終わりと言われると困るので、矢継ぎ早に話してしまい、ゴビンダさんはほとんど聞いているという状況でした。でも、外からの情報を沢山得て満足そうでした。お母さんの体調がすぐれないので来日は難しい、残念だけど、無理をしてもっと悪くなるより、長生きしてもらいたいでしょといいましたら、悲しそうな顔をして頷きました。ゴビンダさんは、お母さんの体調が悪いのを知っているので、今回無理なら、もう一生会えないだろうと思っているのです。その様子を見て、改めて日本の警察、司法のあり方に憤りを覚えました。

ゴビンダさんも、面会について現在、異常に厳しくなっていることを知っていて、私の面会が許されるかどうか心配していたようです。最近の刑務所側の対応には納得できません。支援の会としても抗議行動を起こす必要があると考えています。 蓮見順子

### 2009 無実のゴビンダさん支援集会

～ ネパールに届けよう、正義 (justice) の風を！ ～

日時： 4月4日(土) 午後2時～4時45分 (開場1時半)

会場： 港勤労福祉会館 第1洋室

(JR 田町駅、都営地下鉄三田駅下車)

\* 詳細は、同封のチラシをご参照ください。

## 「支える会」活動報告（2009年1月～2月）

### 1) 在日ネパール人への協力要請

1月25日、大森西友デパート5階で開催された「国際ネパール人連盟・日本」の集会で、「無実のゴビンダさんを支える会」からのアピールを行いました。

当日は、在日ネパール人各種団体の代表はじめ多くの参加者があり、「在日ネパール人の抱える諸問題と解決への道」というようなテーマでそれぞれが問題提起し、経験者らの助言、討論などが行われました。

ゴビンダさんの事件は、古参のネパール人にとっては忘れがたい出来事ですが、最近になって日本に来られたネパール人はこの事件を知らない人も多くなってきました。そこで、在日ネパール人が抱える問題のひとつとして、まず冤罪に苦しんでいる同胞がいることを知ってほしい、どうしたら彼を家族のもとに帰すことができるのか考えてほしいと訴えました。また署名活動への協力や4月4日支援集会への参加も呼びかけました。

司会者がリードしたこともあり、多くの参加者から発言がありました。今後、同会のメンバーが運営するネパール語のHPにも、随時、集会案内などを掲載するとのことです。

### 2) 受刑者移送条約についてネパール政府への働きかけ

ネパール政府のバツライ財務大臣が、2月6日～10日来日することが数日前にわかったので、大至急、ゴビンダさんに「上申書」を書いてもらい、2月9日、ネパール大使を通じて同大臣に上申書を提出しました。自分は無実の罪で苦しんでいるが、再審も仮釈放も非常に長い年月がかかるので、受刑者移送条約により帰国できる道も用意していただきたいとの内容です。この条約のことは、ゴビンダさんの刑が確定した当時から、「支える会」としても将来的な課題のひとつにしていたのですが、その後、ネパールの政情が悪化してしまったため、ペンディングにせざるをえませんでした。最近、ようやく政情が安定してきたので、少しずつ働きかけをしていくことができそうです。

### 3) 面会制限の強化

昨年11月頃から、横浜刑務所は「面会人数が多くなりすぎている。支援者の面会は1～2名にしばるように」などと言い出しました。そこで、「国民救援会」と「支える会」が当局に要請を行ったのですが、「安否ではなく、重要な用件があるところが認められた場合に限る」との言い分を変えようとはしませんでした。1月になって面会を申し込んだ支援者（今まで何度も面会歴がある事務局スタッフ）が面会不許可になるという事態が起きました。ネパールの家族との連絡や再審についての相談などを面会目的にあげたにもかかわらず、「手紙に書けばよい」とか「身元引受人から伝えればよい」などと言って取り合わなかったそうです。受刑者処遇法の揺り戻しどころか、まさに旧監獄法に逆行してしまったかのような当局の対応を放置しておくことはできません。国民救援会や他団体と協議の上、広範な情報にもとづく大きな対策をたてる必要があると思っています。（客野記）

**なくせ冤罪！5・20大集会** ～ 明日からあなたも裁判"官"？ ～  
5月20日（水）午後6時30分開会（6時開場）九段会館・大ホールにて

## 「和歌山カレー事件を考える東京集会」の報告

2月14日の「和歌山カレー事件を考える東京集会」は150名近くの方が参加し、大変良い集会でした。最高裁の口頭弁論を24日に控え、東京では初めての支援集会となりました。

10年前にマスコミで大宣伝された和歌山カレー事件は直接証拠に乏しく、いわゆる「情況証拠の積み重ね」で一・二審有罪とされた事件ですが、検察が主張した「情況証拠」の最たるものは、カレー事件とは別件の殺人未遂事件（林眞須美さんが夫や知人にヒ素や睡眠薬を飲ませて殺そうとした、とされた）でした。

ところがこの殺人未遂事件自体が全くのでたらめであることを、被害者とされた夫の林健治さん自身が明らかにしました。保険金詐欺目的でヒ素を自分で飲んだ「自作自演」だったというのが真相です（健治さんは諸々の理由で二審段階から明らかにしました）。

慎重を期すべき「情況証拠の積み重ね」において、「情況証拠」の最たるものが崩れているのですから、検察のストーリーは破綻していると言わざるを得ません。

台所から出てきたポリ容器のごとき被告人との関連性の証明がないものは初めから証拠能力を認めるべきではありません。こんなものを一々認めていたら捜査機関がその気になれば、どんな事件でも冤罪が作れてしまいます（北陵クリニック事件の点滴ボトルや血清、再鑑定できない鑑定書と同じ）。

本件を精力的に取材しているジャーナリストの片岡さんは、第19回「週刊金曜日ルポルタージュ大賞」佳作入選作で、以下のように結論付けています。

「では結局、林眞須美の保険金殺人・殺人未遂疑惑は一体何だったのか。捜査機関が同女をカレー事件で有罪とすべく創作し、メディアが大宣伝した壮大な茶番だったのだ」

集会後も記者陣に囲まれ質問に丁寧に答える夫の健治さん、児童施設で辛い時代を過ごした4人兄弟のうち、母親の無実と支援を訴えに上京した長男と三女の澄んだ瞳が印象的でした。詳しくは、以下をご参照ください。（藤沢@林眞須美さんを支援する会会員）

支援会HP：[http://enzai.org/masumi\\_hayashi/top.html](http://enzai.org/masumi_hayashi/top.html)

週刊金曜日 2.13 第738号：[http://www.kinyobi.co.jp/backnum/tokushu/tokushu\\_kiji.php?no=502](http://www.kinyobi.co.jp/backnum/tokushu/tokushu_kiji.php?no=502)

冤罪 File No.5：<http://enzaifile.com/>

## 事務局からのお知らせ

事務局会議：隔月第2火曜日 午後6時～8時 現代人文社：四谷駅下車徒歩8分

< 次回は2009年3月10日（火） >

ゴビンダさんに年賀状を出してくださったみなさま、ありがとうございました。今後とも、激励の手紙を書いていただけますよう、お願いいたします。平仮名、カタカナ、簡単な漢字なら読み書きできますが、みなさまのお名前にはフリガナをお付けください。

【〒233-8501 横浜市港南区港南4-2-2 ゴビンダ・プラサド・マイナリ様】

無実のゴビンダさんを支える会 事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10ハッ橋ビル7階 現代人文社気付 TEL：080-6550-4669

e-mail：[govinda@jca.apc.org](mailto:govinda@jca.apc.org) ホームページ <http://www.jca.apc.org/govinda>